

## トンガ王国に於ける 10 年間の小学校歯科保健活動の変遷

○河村康二<sup>1</sup>, 河村サユリ<sup>1</sup>, 遠藤眞美<sup>2</sup>, 竹内麗理<sup>3</sup>, 田口千恵子<sup>4</sup>, 小林清吾<sup>4</sup>

<sup>1</sup> カワムラ歯科医院, <sup>2</sup> 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座, <sup>3</sup> 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座、

<sup>4</sup> 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座、

**【緒言】** 1998 年よりトンガ王国（以下トンガ）に於いて南太平洋医療隊は予防歯科保健活動を行ってきた。トンガ王国は人口 10 万、大小 170 の島々から成る立憲君主国である。活動開始当初、訪問先の小学校で出会う児童の口腔環境は悪く、う蝕は治療されることなく放置されており、歯科的問題の大きさに直面した。以降、実態調査を重ね現地関係者との交流を深めながら計画的に種々の歯科保健活動を行ってきた。今回は特に、小学校をベースとした歯科保健活動「マリマリプログラム」の経緯について振り返り、その効果を評価し、活動計画の見直しを図ることとした。我々の目指すゴールは、本活動が引き継がれトンガ人自らの活動として発展していくことにある。

### **【対象及び方法】**

「マリマリプログラム」において、当初から予防歯科活動に興味を示したトンガ人歯科医師が中心となり、他の歯科スタッフとも信頼関係が築かれ現地での予防歯科チームが作られた。医療従事者・教師・父兄等を対象に本プログラム遂行のためのワークショップを繰り返し行った。教師達はマリマリプログラムの内容を父兄に伝えた。また、一般住民への啓発を目的に毎年各所でオーラルフェスティバルを開催した。2006～2009 年の 3 年間、JICA との連携により運動を進めることができた。2007～2008 年、JICA に派遣されたシニアボランティア歯科医師が本プログラムに参加した。具体的な口腔環境の改善対象を小学校学童とした。予防活動の軸としてスクールベース・フッ化物洗口を実施した。小学校では週 1 回（0.2%NaF 溶液）、幼稚園では一日一回（250ppmF、ミラノール®）を実施した。本医療隊は、中心病院で作成管理しているフッ化物洗口液を各施設に配送する巡回車を 3 台寄贈し、またプログラムに必要な種々の機器材を寄贈した。2008 年、フッ化物洗口を 6 年以上継続している小学校：フッ化物洗口群と 1 年未満の小学校：コントロール群の 10 歳児を対象として、フッ化物洗口によるう蝕予防効果を評価した。同時に児童の生活習慣の実態調査を実施し、児童・教師・父兄を対象に本活動への理解及び行動変容を把握するための質問紙調査を行った。

**【結果及び考察】** 当初数校から始めたフッ化物洗口は 2008 年に全公立小学校へと広がり、幼稚園 34 施設、小学校 101 施設、14,000 名が参加するに至った。フッ化物洗口によるう蝕予防効果は口腔全体で 54.2%、有意差が認められた。多くの児童はフッ化物配合歯磨剤を使用し、日に 2 回以上歯磨きをしており、64%の児童は就寝前に行うと答えていた。質問紙調査では 10 年前には歯ブラシを持っていなかった児童が歯磨きを習慣化しており、自身で購入するという変化が見られた。実施校の児童は口腔の健康に対し関心が高まり、フッ化物の利用がう蝕予防につながることを理解していた。多くの教師は活動の継続を望んでおり、積極的ににかかわりたいと考えるようになってきた。半数以上の教師は活動資金の一部として、10～20 パアング（500～1000 円）程度は自己負担にすべきであることを支持していた。トンガに於いて小学校歯科保健活動の重要性は充分理解されており、トンガ人自らが主体的に継続施行していく上でこれらの結果は強化因子になるものと考えている。